

□令和7年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【特選】

選 者	俳 句	住 所	俳 号
稲 畑 廣 太 郎	源流のひと雫より秋深む	伊賀市	坂 井 周 子
稲 畑 廣 太 郎	滴りの水の鼓動を掬ひけり	伊賀市	山 下 文 子
井 上 弘 美	火の尽きて闇蒼みゆく牡丹焚	杉並区	田 中 佳 子
井 上 弘 美	仕上りの琴に糸張る夜なべかな	広島市	森 本 弘 子
井 上 康 明	今生は会へぬ人なり鳥雲に	北杜市	池 永 早 知 子
井 上 康 明	柏餅木綿のやうな日暮くる	津市	山 崎 満 世
小 川 軽 舟	見送りのなき家族葬蟬時雨	甲賀市	田 中 茂 三
小 川 軽 舟	早世の母の名は千代寒椿	神戸市	松 田 郁 子
小 澤 實	部首ごとに並ぶ活字やウマ棚冷え	杉並区	梶 等 太 郎
小 澤 實	蕉翁も汁啜りしか焼蛤	小牧市	鈴 木 年 春
權 未 知 子	まさをなるひかり啜へて冬鷗	小平市	大 月 弓 香
權 未 知 子	仮の世へ打ち上げられし昼寝覚	伊勢市	久 世 伸 子
坂 口 緑 志	我が身より切幣零れ夏越の夜	名張市	森 岡 秀 美
坂 口 緑 志	釈迦ヶ嶽ここ北限の幣辛夷	三重県	金 津 や よ い
谷 口 智 行	晩柑も入れ背負籠の島女	津市	服 部 美 佐 子
谷 口 智 行	鯛あらの骨啜りある涼しさよ	米子市	す ず き み の る
西 村 和 子	飛竜頭にかかる銀箔春深し	京田辺市	加 藤 草 児
西 村 和 子	つばくらめ雨の隙間を濡れもせず	志摩市	松 村 正 之
長 谷 川 權	願はくは転がる石に西行忌	さくら市	山 越 正 彦

□令和7年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【特選】

選 者	俳 句	住 所	俳 号
長 谷 川 櫂	白蚊帳に生後まもなき赤子かな	四日市市	森 田 久 枝
星 野 椿	虚子塔や立待月を待つ心	河内長野市	中 西 博 雅
星 野 椿	蟬鳴いて戦後といふは終り無く	田原市	那 津 七 津
堀 本 裕 樹	恋猫のときもありしか竈猫	小牧市	鈴 木 年 春
堀 本 裕 樹	まぶしさの奥のさびしさ蟬時雨	文京区	岡 本 千 晶
正 木 ゆ う 子	まん中に解あるごとし額の花	長岡市	伊 藤 一 二 三
正 木 ゆ う 子	ブラバンの音色に大暑乗せにけり	志摩市	西 尾 澄 己
三 村 純 也	水濁る樋門に群るる梅雨鯰	名張市	谷 村 賢 二
三 村 純 也	軽トラの所狭しと狩の宿	神戸市	山 内 茉 莉
宮 坂 静 生	地に近く熟るる心根ゆすらの実	茅野市	加 藤 律 子
宮 坂 静 生	風雲の夕暮れ時や夜木菟稻架	堺市	森 野 哲 州
宮 田 正 和	麦藁に座り憩へり父と母	三重県	舘 千 恵 子
宮 田 正 和	伐採の年輪に夏立ちにけり	名古屋市	岩 田 半 寒
片 山 由 美 子	宿坊の百の畳を替へにけり	茅ヶ崎市	塚 本 治 彦
片 山 由 美 子	風鈴の百の織りなす千の音	福岡市	久 美 二 葉